

【特別支援学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1（特別支援学校）

学校名		唐津特別支援学校好学舎分校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である					
1	前年度 評価結果の概要	◇ほとんどの項目が目標を達成した。今後も取組を継続していく必要がある。 ◇生活態度の向上や生活リズムの定着に関しては、施設と連携しながら粘り強く進めたい。 ◇児童生徒の関わる部分は、年度途中の転出入が多いため、実態を把握し適切な指導及び支援を随時行う必要がある。							
2	学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。							
3	本年度の重点目標	① 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育活動の推進に努める。 ② 新学習指導要領を踏まえたうえで、児童生徒のこれまでの成育歴、特性に配慮しながら、教職員が教育目標、教育活動について意思統一を図る。 ③ 分校に通う児童生徒についての指導、支援について、専門性の向上を図る。 ④ 児童心理治療施設「好学舎」や関係機関と連携し、支援体制の確立を図り、学校運営を円滑に遂行する。 ⑤ 業務および組織の見直しを常に行いつつ、働き方改革の推進に努める。							
4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			
(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○授業への取り組みが向上した(理解度、授業を受ける態度など)と感じられる児童生徒70%以上 ○家庭学習の定着: 課題に取り組み、提出する児童生徒70%以上 ○「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答する教員70%以上	・児童生徒に合わせた学習環境や学習形態などの工夫(ICT機器の効果的な活用や、活動内容・時間の調整など個別の対応を可能な範囲で実施) ・負担が少なく、主体的に取り組みやすい課題の提供 ・自立活動に関する専門性向上に必要な校内研究及び職員研修を設定し、効果的な指導及び評価を行う。	B	・学習内容や時間の調整を行った結果、授業態度が向上した児童生徒が見られる。 ・家庭(好学舎)と取組状況を共有し、内容の調整を行い、意欲の向上を図ってきた。 ・自立活動についての授業研究を通して専門性の向上を図っているため、目標はおおむね達成できると思われる。	A	・「授業への取り組みが向上した」と回答する教員100%、保護者81% ・「課題を提出した」児童生徒がほとんどであった。 ・「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と87%の教職員が回答した。 ・学習環境や指導形態の工夫について共有できた。 ・自立活動の授業研究を全職員が行い協働的に学んだ。	A	・保護者評価81%で指標は達成されている。 ・高評価が得られて素晴らしいと思う。、一人一人の真のニーズにも着目して進めてもらいたい。 ・教員、保護者には高評価であるが、児童生徒自身がどう感じているのかの観点も大切と感じる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者との接し方を含めた生活態度が向上した児童生徒60%以上 ○自分を振り返ったり、思いを適切に話せるようになったりした児童生徒60%以上	・学校生活の様々な場面で、教師が手本となる言動を示す。 ・児童生徒の思いを表出しやすくなる場の設定や関わり方を行う。	A	・学校生活全般を通した取組により、児童生徒の生活態度の変容が見られている。 ・自分自身を振り返る際に、児童生徒の実態に合わせた意思の表出を促している。	B	・「他者との接し方を含めた生活態度が向上した」と回答した教員73%、保護者81%。「自分自身を振り返ったり、思いを適切に話せるようになったりした」とした教員81%、保護者71%となっている。 ・生活態度の向上や自分の思いを適切に伝えることについては、継続的な取組を行っている。	B	・実施結果で70%以上確保され、指標は達成されている。 ・生活環境などの背景により、様々な難しい面があると思うが継続して取り組んでほしい。 ・一番難しい内容であるが、力を入れ取り組むことをお願いしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止や対応等を理解し、組織的に行うことができていると回答した教員60%以上	・いじめに関する研修を年2回以上実施 ・いじめの覚知・認知の観点から、児童生徒の様子を正しく見取り、教師間の情報共有を密に行う。	A	・研修を通していじめの定義を確認し、防止や対応について組織で考える機会となった。 ・児童生徒への聞き取りを丁寧に行い、情報共有することができた。	A	・「いじめの防止や対応等を理解し、組織的に行うことができています」と回答した教員93% ・4月、8月、12月にいじめの対応に関する校内研修を行い、現状や対応の確認ができた。 ・放課後の職員情報交換会、施設との連絡により、全児童生徒のきめ細かい把握と対応を行うことができた。	A	・再発防止に取り組んでいる。引き続き児童生徒のストレス解消に努めてもらいたい。 ・迅速な対応を続けるようお願いしたい。 ・職員はもちろん、児童生徒にも様々な場面で指導する機会を設けることが好ましい。
	◎児童生徒が夢や希望をもち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「児童生徒の希望や実態等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と回答する施設職員50%以上	・個別の各種計画における本人や保護者の希望やニーズの反映 ・キャリアパスポートの活用による基盤となる能力・態度、勤労観・職業観の形成 ・中学部における進路指導の充実（職場体験、見学、高校説明会等の実施）	・各種の計画作成を通して、ニーズの把握を行っている。 ・進路指導の充実に向けての取組は計画通りに実施できている。	B	・各種の計画作成を通して、ニーズの把握を行っている。 ・進路指導の充実に向けての取組は計画通りに実施できている。	B	・学校では「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と保護者全員が回答した。教員はあまりできていないと回答する職員が複数いた。 ・教員にもキャリア教育や職業教育に関する理解を深めることが課題である。	B
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「歯の健康は大切である」と考える児童生徒80%以上 ○食後の歯磨きを行う児童生徒90%以上	・歯の健康に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	A	・歯の健康週間にブラッシング指導を実施。 ・歯の健康に関する意識調査で「歯の健康は大切である」とした児童生徒80%以上。 ・保健だよりで歯の健康について説明。	A	・意識調査の結果、児童生徒の歯の健康に対する関心が高く、意識して歯磨きをすることができた。 ・食後の歯磨きを行う児童生徒は90%以上となっている。	A	・全身疾患に関わる歯の健康を取り上げていることに感心した。 ・衛生面や環境面に意識が向く配慮がなされている。 ・高評価で今後も継続して取り組んでほしい。
	○感染症予防の徹底	○感染症予防について、児童生徒の指導に努めたと回答する職員80%以上	・感染症予防について職員に周知、児童生徒に予防の指導をする。 ・好学舎と連携して児童生徒の健康状態を把握する。	A	・感染症予防について再確認し、消毒等の強化を行い、予防に取り組んだ。 ・児童生徒の健康状態について、日々好学舎と共有した。	A	・全職員が感染症の指導や予防に努めた。 ・児童生徒の健康状態について、好学舎と情報共有しながら感染症の予防に努めた。・感染症予防については、最新の動向をふまえ必要な対策を講じた。	A	・対策の必要性が周知されている。 ・引き続き感染症予防に努めていただきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤(年休取得推進)日、月曜日を定時退勤推奨日に設定 ・学校閉庁日を5日間設定する。 ・会議内容の事前周知や資料の精選による会議回数や時間短縮	A	・規則を超える時間外勤務は、なかった。 ・各個人が退勤時間を意識して計画的に業務を行っている。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均約16時間 ・時間外在校時間は、一部の職員のみみられるが、規則を超えるものはなかった。 ・効率よく会議等が実施されていると職員のほぼ全員が感じている。 ・学校閉庁日を5日間設定し、年休等の取得が進んだ。	A	・大変な業務の中ですが、自身の健康管理も大切にしてください。 ・努力がうかがえる。 ・児童生徒と向き合うためにも、心身の健康や業務の在り方に配慮してほしい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○関係機関との連携の推進	○児童相談所や関係学校、好学舎との連携強化・内容の充実	○児童相談所との情報共有のケース会等の1回以上の開催 ○転出入時の引継ぎ会の開催90%	・好学舎との細やかな情報交換、情報共有の実施 ・児童相談所への連携強化のための啓発(ケース会開催の依頼) ・関係校との綿密な引継ぎ	A	・月1回の合同会議等を行う際にも、事前に協議内容を共有し、効果的に進めている。 ・転入学に伴う関係校との引継ぎは、連絡を取りながら計画的に実施している。	A	・すべての三者会議を実施できた。 ・月1回の合同会議の他、必要な場合、随時ケース会を実施した。 ・転出入時の引継ぎは、事前連絡、必要な資料を準備し100%実施できた。	A	・コロナ禍での会議実施100%は素晴らしい。今後も関係機関との連携推進に努めていただきたい。 ・指標を達成している。関係機関との情報交換は大切。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育									
5	総合評価・ 次年度への展望	・目標を達成した項目については、今後も取組を継続し維持したい。 ・生活態度の向上に関しては、分かりやすくルールを示して粘り強く進めたい。 ・キャリア教育及び職業教育については、児童生徒にも意識付けできるようにしたい。 ・転入生だけでなく、在校生に対しても適切な指導及び支援を随時見直したい。							